

## 大山崎町放課後児童クラブにおける過去の5、6年生児童との関わり

### (経過)

- 昭和45年 「学童保育」(なかよしクラブ)が保護者によって発足(大山崎小学校)
- 昭和50年 「でっかいクラブ」が保護者によって発足(第二大山崎小学校)
- 昭和52年 町による運営開始(対象は4年生まで)  
4年生を終えた児童らによる「JT(ジュニア・ティーチャーズ)クラブ」が、第二大山崎小学校に保護者によって発足。活動場所として放課後児童クラブ施設を利用。  
※「JTクラブ」発足の理由としては、クラブを4年生で卒所するにあたって、放課後の生活を一人で過ごさせる親としての不安と、今までクラブで育てられてきた力をそのまま伸ばしていきたいという保護者の願いによるもの。
- 昭和54年 大山崎小学校でも4年生を終えた児童らによる「JTクラブ」が保護者によって発足し、放課後児童クラブ施設を利用。
- 平成元年 町では、放課後児童クラブ施設の建替え、更新等の計画検討を機会に、施設を利用する対象児童を事業運営の対象である4年生までとすることとし、「JTクラブ」の施設利用を終了とすることに決定。  
※町による放課後児童クラブ運営移行後にスタートした「JTクラブ」は、自主運営によるものであったため、適切な施設活用の観点から、町社会教育委員会にも諮問したうえで、施設利用終了の決定に至ったもの。
- 平成3年 「JTクラブ」は大山崎小学校では「わんぱくクラブ」、第二大山崎小学校では「チャレンジクラブ」として、それぞれ別の場所で活動をスタート。

### (参考)

#### 「JTクラブ」に向けた保護者の思いは・・・

(保護者会組織で発行された文集等から一部を引用)

#### <スタート時期>

- 放課後児童クラブが4年生までであったので、5、6年生はその生活ぶりからみても高学年にふさわしい活動の場をもったほうが、子どもの発達に合うのではないかと考えた。
- 4年生が終わる頃には、クラブでつけた力を学校・学級・地域でも広げてほしい。家の用事もしっかりやってほしい。学習も進んでやってほしいと考えた。
- 「JTクラブ」の発足にあたって、仲間とのつながりを作る。生活の拠点となる場所を作る。指導者を呼び、費用は保護者で負担する。ことを決めた。

#### <経過時期>

- 活動内容については、手探りの状態が続き、子供たち(5、6年生)の中からは面白くないという声が出てきて、親にだまってさぼり始める子も出始めた。原因は、活動方針がはっきりしていなかったことや、高学年になって多様化した子供たちの要求を正確にとらえていなかったことがあげられる。一番の問題点は、「JTクラブ」としての独自の活動が先行しすぎて、放課後児童クラブとのつながりを断つような形をとったため、ジュニアリーダーとして自主的に活動する場を子供たちから奪ってしまったことにあったようだ。
- 5年生になると、遊びの重要性については納得していたが、「勉強は今のままでよいのだろうか」という心配が常にあり、保護者会の集まりでも議論の的になった。